

日々の祈り

2021年8月23日(月)~28日(土)

宮崎中部教会



<はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

<使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるままに、祈りの時をもちましょう。

<今週の祈りの課題>

- ・コロナウイルスによって苦しみを負っている人々に、癒しと平安があるように。一日も早く収束するように。
- ・世界の国々の歩みが、神さまの御心に適ったものとなるように。迫害や困難にある人々に助けがあるように。
- ・教会員の一人一人の信仰生活が、主にあって守られ支えられるように。

23日(月)

ルカによる福音書 17章 14~15節

イエスは重い皮膚病を患っている人たちを見て、「祭司たちのところに行って、体を見せなさい」と言われた。彼らは、そこへ行く途中で清くされた。その中の一人は、自分がいやされたのを知って、大声で神を賛美しながら戻って来た。

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。自分がどなたから愛されているか、どなたからの恵みで日々を生かされているか、どなたからの救いのゆえに、罪を赦され、新しい命に生かされているか。それを知り、そのお方に向かって声をあげ、感謝と賛美と祈りをささげることが出来る者は、世界中の誰にもまして幸いです。今日、わたしたちもまた、この幸いに招かれています。

24日(火)

詩編 103編 1~2節

わたしの魂よ、主をたたえよ。わたしの内にあるものはこぞって／聖なる御名をたたえよ。
わたしの魂よ、主をたたえよ。主の御計らいを何ひとつ忘れてはならない。

たたえよ。たたえよ。たたえよ。詩人は、わたしたちが主なる神さまを、魂をもって、存在のすべてをもって、いつもほめたたえるようにと促します。そして、主の御計らいを何ひとつ忘れてはならない、と語ります。それは、わたしたちの日々のどのようなことも。小さなことも、大きなことも、あらゆることは主の御手の中にあり、それらのすべては、わたしたちを神さまの御許へ近付けるための、神さまの良いご計画の内にあることを忘れないためです。

25日(水)

詩編 33 編 12~14 節

いかに幸いなことか／主を神とする国／主が嗣業として選ばれた民は。主は天から見渡し／人の子らをひとりひとり御覧になり 御座を置かれた所から／地に住むすべての人に目を留められる。

わたしたちは、主を神とする国の国民です。国の王である主なる神さまは、天の高きにいますお方ですが、ご自分の民ひとりひとりをご覧になり、すべての人に目を留め、心を砕かれるお方です。それゆえに神の御子は、天の御座から地上に低く降って来られ、貧しい者、小さい者、病める者の許にまで来られ、罪人をご自分の食卓に招いて下さいました。そして、神と人とが共に親しく交わることを喜びとして下さるのです。いかに幸いなことか。主を神とする国。この主なる神さまに選ばれた民は。

26日(木)

ローマの信徒への手紙 14 章 17 節

神の国は、飲み食いではなく、聖霊によって与えられる義と平和と喜びなのです。

「神の国」とは、神のご支配のことです。その「神の国」に生きるとは、「義」つまりイエスさまの十字架による罪の贖いに与ることであり、「平和」つまり神さまとの和解に与ることであり、神と共にある「喜び」に生かされるということです。聖霊によって十字架と復活のイエスさまに結ばれ、この「神の国」に生きる者とされた時、わたしたちは、この世の悩みも苦しみも全てを覆う神の恵みのご支配を信じる者とされ、忍耐する力が与えられ、確かな希望を見つめて歩む者とされるのです。

27日(金)

詩編 146 編 10 節

主は、とこしえに王となられる。／シオンよ、あなたの神は代々に。／ハレルヤ。

次の主日礼拝の御言葉です。主なる神さまが王としてご支配なさるところ。それが、神の国です。わたしたちの神は、天と地を創造され、正しい裁きを行なわれ、飢えた者や貧しい者を顧み、小さな者を支え、病んでいる者を癒し、倒れている者を立ち上がらせるお方です。罪人を解放し、死んだ者をよみがえらせることが出来るお方です。このお方が、わたしたちを支配し、とこしえにわたしたちの王でいて下さいます。ハレルヤ。

28日(土)

ルカによる福音書 17 章 20~21 節

ファリサイ派の人々が、神の国はいつ来るのかと尋ねたので、イエスはお答えになった。「神の国は、観察できるようなしかたでは来ない。『ここにある』とか、『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがたの中にあるからだ。」

明日の主日礼拝の御言葉です。わたしたち人間の目は、「神の国」を直接見ることは出来ません。それゆえに「神の国はいつ来るのか、どこに来るのか」と尋ねたくなるのです。イエスさまは、「神の国はあなたがたの中にある」と言われました。イエスさまご自身が「神の国」、神のご支配を実現して下さいます。この主イエスがおられるところに、神の国はあるのです。主イエスがわたしたちと共にいて下さるということが、わたしたちが神のご支配の只中にある、神の国に生きている、ということなのです。

聖句:日本聖書協会『聖書 新共同訳』